

大和唐古弥生式遺跡の研究

明治34年 高橋健自 「大和考古雜録」(考古界)

大正13年 「原始的繪画を有する弥生式土器について」(考古学雜誌)

昭和2年 「多鈕細文鏡考」(考古学研究)

昭和5年 「長門発見の一弥生式土器—其の青銅器との関連(考古学)

昭和8年 「弥生式文化と原始農業問題」(日本原始農業)

昭和11年～12年 第一次調査

森本 六爾

- ・ 絵画土器研究：鹿と弥生文化＝大和で既に農耕生活。

← 金海貝塚の炭化米・岩崎遺跡の焼米・岩室遺跡の粃圧痕土器

- ・ 青銅器研究：大県で多鈕細文鏡とであう。名柄遺跡(銅鐸)と梶栗浜遺跡(銅剣)と同伴＝青銅器時代とする。銅鐸・銅剣などの型式分類＝機能的変化)。

- ・ 弥生農業研究

弥生農業＝水稻稲作・集落の維持(農業)・耕地(低湿地から高い所)・水田形(小さく不規則から区画化)・絵画土器(安易と定着性)

土器の分類(煮沸と貯蔵 前中後に分類)

伝播は西から東に席卷するが東日本には縄文文化が根強く残る。

弥生は、支石墓の大石の運搬労力と銅鐸の闘争の図に着目。

第一次調査

- 昭和11年～12年 国道敷設工事に伴う唐古池の発掘調査(方法)
- 奈良県と京都大学考古学教室
- 浜田耕作の指導、末永雅雄・小林行雄・藤岡謙二郎
- 報告書「大和唐古弥生式遺跡の研究」(昭和18年)
- 弥生の3大文化要素の発見： ①弥生土器 ②金属器 ③稲作

構 成

- 序説 唐古池研究史・調査の経緯
- 第2章 遺跡地の地理と地形(盆地・水系・地層・堆積面の評価)
- 第3章 遺跡の状態(遺構:① 3筋の砂層 ② 大小107基の竪穴)
- 第4・5章 土器類
- 第6章 木器類及び植物製品
- 第7章 石器類
- 第8章 土製品及び骨角牙製品
- 第9章 自然遺物 (環境)
- 第10章 後論 (総合評価)

立地条件

- 1 盆地の大部分は水面→新成低地帯(湖沼地域)。(←根拠)
- 2 盆地の最も低湿部に立地し、旧初瀬川が盆地中央部の湖沼帯に流入する付近に作り上げた三角州上に立地。(←自然堤防)
- 3 地層＝遺物包含層には、黒色土層(黄褐色土)
- 4 現在＝3つの微高地案(北・西・南地区)(←中央区・南地区の修正)

堆積作用

- 三角州：河川の運搬してきた細かい土砂や粘土が、河口や湖の付近に堆積してできた地形。
- 扇状地：川が山地から平地に流れ出るところにできた扇形の堆積地帯。川の勾配が急に小さくなり、谷幅が広くなり、運搬力が急減するため上流から流下した砂礫が堆積してできる。
- 自然堤防：河川下流域の両岸に自然にできた堤防状の微高地形。洪水時に運搬されてきて、川水の砂やシルトが流路の両側に堆積したもので、内側が急に外側はゆるく傾斜し、数メートルの比高をもつ。後背湿地は、水はけが悪く水田に利用される。

中央区の地形

- 中央区の位置
- 調査履歴・・・第50・53次調査、98次調査, 72・76次調査
- 地形: 南北に落ち込み、調査地中央で活動域と想定される
遺構・遺物(=微高地と谷地形が入りこむ。東→西の旧流路)
- 地層: 青灰色シルト層とその上部に堆積する黄灰色粘土
- 前期中葉: 北側の落ち込み(木器貯蔵穴・区画溝・土器・石器・網杵)
- 中期前葉～後葉: 中葉を中心に居住域(区画溝・竪穴住居跡)
- 後期: 中期末の洪水後、遺構少なく空ろな空間

中央区98次地層

第Ⅰ層：灰青色粘質土	〔水田耕土、	厚さ約0.1m：標高48.00m〕
第Ⅱ層：茶灰色粘質土	〔水田床土1、	厚さ0.15m：標高47.90m〕
第Ⅲ層：暗茶灰色粘質土	〔水田床土2、	厚さ約0.1m：標高47.70m〕
第Ⅳ層：暗褐色砂質土	〔中世遺物包含層1、	厚さ0.15m：標高47.60m〕
第Ⅴ層：灰褐色粘質土	〔中世遺物包含層2、	厚さ約0.1m：標高47.50m〕
第Ⅵ層：黒褐色砂質土	〔弥生・古墳時代遺物包含層、	厚さ約0.1m：標高47.40m〕
第Ⅶ層：黄褐色粘質土	〔弥生時代中期中葉～古墳時代初頭遺構検出面、	厚さ約0.1m：標高47.30m〕
第Ⅷ層：灰色粘質土	〔弥生時代前期～中期前葉遺構検出面、	厚さ約0.1m：標高47.20m〕
第Ⅸ層：黄灰色粘土	〔ベース、	厚さ約0.2m：標高47.00m〕
第Ⅹ層：緑色粘土	〔ベース、	厚さ0.15m：標高46.75m〕
第Ⅺ層：青灰色シルト	〔ベース	：標高46.60m〕
第Ⅺ-b層：灰色砂	〔ベース	：標高46.60m〕

南地区の地形

- 南地区の位置
- 第65次調査
 - ① 前期 遺構・遺物は確認されていない
 - ② 中期前半...土坑・大溝2条(南地区を囲む)
 - ② 中期後半...土坑・溝・竪穴住居(中期中葉の柱穴や排水溝、壁の立ち上がりを確認)
 - ③ ~後期前半 井戸・炉跡(中期後半)・壺棺1基
 - ④ 後期後半...井戸・方形周溝墓・壺棺
 - ⑤ 古墳後期...柱穴
- 青銅器生産は、中期末～後期初頭の短期間

西地区

- 西地区の位置関係
- 地形: 河跡や落ち込みを確認できない安定した最大の微高地
- 第8次調査
 - 前期: 土坑(12)
 - 中期: 土坑(8)溝(10)
 - 後期: 土坑(3)
- 第11次調査
 - 前期: 土坑(20)
 - 中期: 土坑(5)住居址(1)柱穴群
 - 後期: 土坑(3)

自然環境

特徴：食用植物の種子が多く果実類が多種。水辺の雑草。
森林性の広葉樹(75%)が大部分を占める。

- 自然遺物の残存条件(伝:藤原京址)
- 哺乳動物の遺骨(猪・鹿・犬・牛・猿)
- 貝類(アカニシ・マシジミ・アハビ・ハマグリ・イシガイ・イタヤガイ)
- 植物性遺物(ケヤキ・クワ・サクラ・クヌギ・ツバキ・アカガシ外にイヌガヤ・ヒノキ・イヌマキ・イネガヤ)
- 食用製遺物モモ・クルミ・トチノキ・カヤ・クリアラカシ・シヒ・ブドウ・エビヅル・ヒシ・イネ・ヘウタン・ユウガオ

植 生(植物群落)

- 常緑広葉樹林帯(照葉樹林)・落葉広葉樹
- 種類組成により3つに分類:①カシ類やモミが優先する地域②シイ類③スタジイやオキナワウラジロガシが優先する地域
- 常緑広葉樹二次林:コナラ・シイ・カシ・タブなど。スタジイ・コジイ・アカガシ・アラカシ・ウバメガシ・タブノキ。
- 落葉広葉樹二次林:コナラ・クリ・クヌギなどのコナラ属・サクラ属・シデ属
- エノキ・ムクノキ(ニレ科の落葉高木)・クヌギ・コナラ(ブナ科の落葉高木)・などの樹木花粉を検出

遺 構

1 砂層

- ・ 形状・成因・土器の出土状況
- ・ 中央(Ⅰ様式土器)→南方(Ⅰ・Ⅱ様式)→北方砂層(ⅢⅣⅤ様式)
- ・ 遺物包含層は不在
- ・ 池底泥土以下の地層

2 竪穴

- ・ 竪穴の形状と土器の分類による区分
- ・ 遺物の出土(土器・木器・石器・屋根材・丸太材・炭化材など)
- ・ 住居用竪穴と貯蔵用竪穴
- ・ 貯蔵穴と井戸

竪 穴（第一様式の例）

- 大小107基・同土器様式でも数尺の間隔＝密集状態、重複破壊跡
- 隅丸の矩形平面・短径3～4・2m長径3・6～5・1m深45～75cm。
- ①45度の角度の土層②屋根小舞組の遺構③葦草層の上部に杉皮④竪穴周辺に杉皮が土器を覆う。⑤細丸杉の丸太材や杭など
- 多数の土器・木器・石器などの生活用具
- 焼土・灰・炭化木片・多量の焼米

豎穴内遺物(第1様式例)

- 木器:木杵・木鍬・木鋤・木槌・木杓匙類・高坏等木製容器・未成品
- 木弓・木製装飾品
- 籠・編物・瓢箪等の植物性工芸品、土器底部破片に藁の輪状編物
- 石器:各種石斧・石包丁・石棒等の磨製石器、石鍬・鎌型石器・包丁形石器などの打製石器、敲石・砥石
- 土製品:紡錘車・投弾
- 骨角牙製装飾品
- 土器:壺・甕・鉢・高坏・大型甕・壺蓋・甕蓋

豎穴（第5様式の例）

- 豎穴：概して小型狭小90～180cmの径の不製円形坑深30～60cm
比較的垂直に掘り下げる。
- 屋蓋その他の構造部分が多く出土
- 木片・木枝・葭など及び焼米・粃殻・焼木と多数の土器片
- 完形の壺形土器が多い。内外から果核・堅果・獣骨がある
- 火の使用痕跡がない

井戸

- 80号縦坑：杭の周壁に入念な保護施設、径が小さく、深い砂層に底部を置く。第5様式期
- 21号縦坑：同様
- 井戸状遺構：巨木の空洞（直径80cm長150cmを残す）
- 下層に砂層
- 第2様式期土器・獣骨・桃核・木の葉が底部に厚く堆積

金属器

- ① 彩文木製高杯の修理に銅針を使用
- ② 鹿角製刀子把の内部に鉄鏽が付着(鉄製刀子の存在を推定)
- ③ 銅剣を模した木製品の存在
- ④ 木杭の削面に鉞様の刃痕
- ⑤ 第Ⅴ様式土器に石器の伴出が少ない
- ⑥ 高杯等の脚臺の滑らかな外面・上面の加工

銅と鉄の伝来

- 青銅器

- 朝鮮半島：京畿道馱洞遺跡・遼寧式銅剣・前12世紀
- 国内：福岡県今川遺跡・遼寧式銅剣の破片を加工・前8世紀

- 鉄

- 朝鮮半島：細竹里遺跡。隍城洞遺跡・石帳里遺跡
- 国内：福岡県曲り田遺跡・板状鉄斧の破片・前4世紀
- 1932年に兵庫県吉田遺跡から鉄器と古式弥生土器とが共伴出土
- 弓筈状有栓鹿角製品（鉄製刀子の茎が長方形でなく円錐形）
- 矢板・杭と農具の表面の違い：前者は弥生早期から後者は中期後半から。

唐古編年の成立

- 1 様式論：一つの遺跡から一緒に出土した土器群を「様式」とし、其の土器を細分「型式」を設定し、複数の遺跡の土器群（型式群）を比較して真の「様式」を求める手法。
- 2 「同一地点より出土する土器間の変化を1様式とみるという前提」
- 3 弥生土器は、その器形・装飾・製作の方面で変化に富む
- 4 佐原真：1様式を古・中・新、3様式を古・新に区分。
- 5 都出比呂志：5様式を区分し庄内式・布留式を含めた7時期。
- 6 寺沢薫：一括資料に基づかない純型式学的な形式→型式→様式。

稲作

- 1 焼米・粃殻の検出
- 2 木製耕具(平鍬・諸手鍬・馬鍬・鋤及び未成品)
(アカガシ・シラカシ・イチイガシ・アラカシなどのアカガシ類)
- 3 竪杵(ツバキ・アベマキ)
斧頭状木器
犁頭状木製品(クヌギ・サカキ)
- 4 石包丁

土製品

- ① 紡錘車
 - 石製紡錘車...数量・石材の変化
 - 土製紡錘車...数量・未成品・製法の変化
- ② 土製投弾...数量・時期
- ③ 支脚...土製・石製
- ④ 土錘
- ⑤ 球形・匙形・異形土製品

骨角牙製品

- 縄文文化の骨角牙製品との違い：数量・原材・装飾性
- 鹿角垂飾品：流水文飾鹿角製垂飾・鹿角文飾鹿角製垂飾
- 猪顎骨製装身具・猪牙製装身具・猪牙製品
- その他利器・利器の付属品
 - 鹿角紡錘車・鹿角製品
 - 弓筈状有栓鹿角製品・鹿角製刀子杷
- 鹿角の加工方法

木製品

- 樹種鑑定：用途に応じた木材の選択
- 加工：木取り方法（製品のくるいを避けるため一定の方式）
- 4類：①木製容器 ②木製耕具 ③木製器具 ④木製武器類
- 木製容器：①土器と同様の類型②金属器の使用した形態
- 彩文ある高杯形木器・銅細線を打ち込んだ高杯形木器

農 具

- 木製農耕具の出土＝原始農業の重要な資料
- 鍬類外多く出土(未成品を含め)、平鍬が多い
- 土器様式を基準に、農具の変遷(平鍬の舟形隆起部・径3cmの斜孔
→着柄隆起をもたない型式)
- 平鍬・諸手鍬・馬鍬・平鍬未成品・柄が円棒状品
- 鋤類及び鋤の未成品
- 柄孔と鍬身の角度

木製装身具

- 透彫漆塗飾板：第1様式期
- 木製漆塗腕輪
- 漆塗櫛：第1様式期

木製器具類

- 豎杵：2種類、使用痕跡が顕著。第1様式期
- 槌形木製品
- 籠形木製品
- 両把刀形木製品
- 鋸形木製品
- 木製紡錘車
- その他器具類

木製武具類

- 各種弓と剣形木製品
- 樺纏黒漆塗弓が4例
- 黒漆塗弓
- 小型丸木弓
- 剣形木製品が3例

編物類

- 竹・葭(あし)・防己等を編む。編み方に各種方式
- 籠類
- 編蓆
- 防己編物
- その他の植物製品
 - 網で包んだ土器
 - 首に縄を巻いた土器
 - 木葉で口を包んだ土器
- 瓢箪

石器

- 石器の量(447個)と割合
- 打製石器(60%)の種類:石鏃・石槍など
- 磨製石器:石包丁(25%)・石斧類(9%)など
- 石材の入手
- 石器の生産と流通(互恵的な社会関係)

打製石器

- ・石材：23の例外を除きサヌカイト
- ・種類：鎌形石器・包丁形石器・石槍・尖頭器・石鏃・石小刀・石錐
- ・石鏃：全てサヌカイト、無柄形・有柄形・柳葉形がほぼ同量だが、破片を合算すると柳葉形が半数。中には腸袂式もある。大型品もある。
- ・未成品以前の剥片や核石が夥しい量＝母石産地から小岩塊を携帰

磨製石器

- 石包丁：石材と形態差が相関関係を持ち、それが時間差を示す
- 土器編年を基準とすると、第1様式期（背部が直線・両刃・流紋岩）
第3・4様式期（背部が外湾・片刃・結晶片岩）。
 - 太型蛤刃石斧・扁平片刃石斧・柱状片刃石斧等の石材・寸法
 - 周縁に鋭い蛤刃を有した環状石斧
 - 磨製石剣・石棒・石槌・敲石・砥石など
 - 石器の用石の考察…石器製作場所。
 - 外観評価：原石の性質・製作技術・地理的環境・内在する利器への
要望・交通交易